

皆さん、おはようございます。

今日は、コロナ禍以前の形に戻して、高校・中学校が合同で集会をしています。このように表現すると、コロナ禍が終わったと言っているように解釈されてしまうかもしれませんが、しかし、8月末の学校祭期間中、そして終了直後は、多数の生徒・先生方が罹患してしまい、感染対策に気を抜いてはいけないということを思い知らされました。学校が、皆さんにとって、心身ともに安心・安全を感じられる場所であるために、今後も感染対策に留意していきましょう。

さて、7月の全校集会の時、私は高校生の皆さんに、「手段への没頭」「目的の形骸化」についてお話をしました。「手段への没頭」は、目的や意味を意識しないまま、漫然と機械的に、単純作業を行うことだと言いました。「手段への没頭」が進むと「目的の形骸化」という状態になってしまうともお話ししました。そして、このことをふまえて、私は皆さんに、それまでの取組が「手段への没頭」や「目的の形骸化」になっていなかったかという視点で振り返り、夏休みに新しいチャレンジをしてほしいとお願いしました。

ここで、皆さんに質問します。この8月・9月に、皆さんはどのようなチャレンジをしましたか。そして、そのようなチャレンジを経験した皆さんは、次にどこへ向かおうとしていますか。

この問いに対する私の現時点での回答を少しお話しします。私は、海外の教育事情を知りたいと思い、8月初めにフィリピンを訪れました。フィリピンの若者の学習や海外進出に対するモチベーションはどのようなものか、フィリピンでは海外からの生徒・学生に対してどのような英語教育を行っているのか、日本の生徒（とりわけ高志高校の生徒）がフィリピンで行う研修プログラムとしてどのようなものがあり得るか、など、いくつかの視点を持って訪問しました。ここでは詳細な報告を控えますが、今回の視察は私にとって非常に実り多いものとなりました。今後の取組としては、私が視察で得た内容などを皆さんにお伝えする機会を持ちたいと思うのに加えて、近い将来、福井県の高校生・中学生の皆さんがフィリピンなどの東南アジアの国々とつながる機会を創出できればとも思っています。

8月下旬には、仙台育英高校の硬式野球部監督、須江航先生のお話を聞く機会に恵まれました。9月上旬にはコロナ感染症に罹患し自宅待機を余儀なくされたのですが、その期間は須江監督から紹介された本を含め、数冊を読む時間を持つことができました。どれも、教育や学校に関して新しい視座を与えてくれるもので、須江監督のお話とあわせて、本校の先生方や保護者の皆さんにも紹介させてもらいました。これらの幸運な経験から得たこ

とを基にして、今後、生徒の皆さんや先生方と新しい時代に求められる学校づくりについて考え、一緒に取り組んでいきたいという思いを強くしました。

先ほどの問いに対する皆さんの答えはどのようなものでしょうか。完全なものでなくても結構ですから、ぜひ言葉で表してみてください。

見聞きしたことや経験したことから何を思い、何を感じるか。それをどのように活かそうと考えるか。そして、自分の将来や誰かの未来にどうつなげようとするのか。

このように、自分自身に次々問いかけながら、その答えを言葉にする習慣を身につけると、どのような効果が得られるでしょうか。

思考の整理ができるようになる。物事を人にわかりやすく伝えられるようになる。

「成功の再現性が高まる」「アイデアを別の領域で転用できるようになる」という人もいます。

私は、自分が何を考え何をしたいと思っているのかという視点から、自己理解を深めることができるのではないかと考えています。

この他にも、言語化することのメリットは様々ありそうです。

いずれにしても、言語化は、自分、他者、社会などに有益な効果をもたらしてくれるスキルだと言えるのではないのでしょうか。

今日の私の話のポイントは「言語化のススメ」でした。ぜひ実践して、どのような効果を感じたか、お互いに共有してみてください。私にも教えに来てくれると嬉しいです。

今日から始まる後期も、皆さんが様々な活動に精一杯取り組んでくれることを期待して、私の話を終わります。